

完了後の評価個表

整理番号 森2-1

事業名	森林環境保全整備事業	都道府県	岐阜県
ふりがな 地域(地区)名	たかやまし 高山市	事業実施主体	岐阜県、高山市、岐阜県森林公社、木曾三川水源造成公社、飛騨高山森林組合等
関係市町村	高山市	管理主体	岐阜県、高山市、岐阜県森林公社、木曾三川水源造成公社、飛騨高山森林組合等
事業実施期間	平成17年度～平成21年度（5年間）	完了後経過年数	5年

事業の概要・目的	<p>① 位置等 高山市は、岐阜県の北部、飛騨地方の中央に位置し、周囲を飛騨市、下呂市、郡上市、大野郡白川村、長野県、富山県、福井県、石川県に囲まれている。 面積は 2,177km²と日本一広い市である。北東部には槍ヶ岳、乗鞍岳、穂高連峰などの飛騨山脈を要し、中央部には宮川が南から北へ流れ、南部には飛騨川が北から南へ流れ、南西部には庄川が南から北へ流れている。</p> <p>② 森林の状況 本地区の森林面積 200,690ha（森林率 92.1%）のうち、民有林面積は 119,611haで森林全体の59.6%を占めている。民有林の人工林面積は 45,374ha（人工林率 37.9%）であり、齢級構成ではIV齢級からX齢級の面積が 30,093haで 66%を占めている。 また、水源かん養保安林として 29,176ha、土砂流出防備保安林として 7,522haが指定されているなど、森林の有する公益的機能の高度発揮が期待されている。</p> <p>③ 本地区を整備する目的・意義 人工林の6割がIV齢級からX齢級であり除間伐等の保育を必要としているが、木材価格の低迷等に伴い、森林所有者の施業意欲が減退しており、森林の有する多面的機能の高度発揮が懸念される状況にあった。 このため、計画的に除間伐等の森林施業を推進することにより、森林の有する多面的機能の維持・増進を図り、もって森林環境の保全に資することを目的として事業を導入した。</p> <p>(事業概要) 森林整備 人工造林 33,22ha、下刈 593.76ha、雪起し 435.08ha、 除伐 1951.33ha、間伐 4,039.87ha、機能増進保育 865.09ha 枝打ち 1,552.18ha、樹下植栽 1.12ha</p> <p>総事業費 2,899,210千円 （当初総事業費 5,224,751千円）</p>
----------	--

① 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>平成27年度時点における費用対効果分析の結果は以下のとおりである。 事業期間（現在）の施業を保育間伐主体から、搬出間伐主体に転換したことをふまえて分析した結果、事業採択時に比べて総費用は大きく増加した。</p> <table border="0"> <tr> <td>総便益 (B)</td> <td>78,905,673千円</td> <td>(事業採択時 114,963,761千円)</td> </tr> <tr> <td>総費用 (C)</td> <td>24,288,747千円</td> <td>(事業採択時 8,974,743千円)</td> </tr> <tr> <td>分析結果 (B/C)</td> <td>3.25</td> <td>(事業採択時 12.81)</td> </tr> </table>	総便益 (B)	78,905,673千円	(事業採択時 114,963,761千円)	総費用 (C)	24,288,747千円	(事業採択時 8,974,743千円)	分析結果 (B/C)	3.25	(事業採択時 12.81)
総便益 (B)	78,905,673千円	(事業採択時 114,963,761千円)								
総費用 (C)	24,288,747千円	(事業採択時 8,974,743千円)								
分析結果 (B/C)	3.25	(事業採択時 12.81)								

② 事業効果の発現状況	<p>本地区において事業着手時に約3万8千haあったIV～X齢級の人工林のうち、整備を必要としていた約9千haの森林において除間伐等の施業が計画的に行われ、森林資源として充実してきている。</p>
-------------	--

③ 事業により整備された施設の管理状況	<p>森林については、森林所有者自ら、又は、森林所有者から経営受託した森林組合等が適正に管理を行っており、特に新たに植栽を行った森林については、その後も下刈り等の保育施業を適切に実施している。</p>
---------------------	--

④ 事業実施による環境の変化	<p>除間伐等の施業が実施された森林は、不用木の除去や不良木の淘汰等が適切に行われ、明るく健全な林分に改善された。</p>
----------------	---

⑤ 社会経済情勢の変化	<p>本地区の林内路網密度は、事業着手時に18.5m/haと県内平均の19.4m/haと比較して低いものであった。しかし、事業着手後に徐々に改善がなされ、作業現場へのアクセスの改善、素材生産の低コスト化等が図られ、それとともに森林施業の意欲が増進されてきている。そのような中で、持続的な森林経営と間伐等の生産性向上にむけて、地域が一体となって取り組んでいる。</p>
-------------	---

<p>⑥ 今後の課題等</p>	<p>事業完了時から5年が経過し、高山市内の資源構成上のピークとなるⅦ～ⅩⅠ齢級の人工林蓄積量は事業開始時の約659万m³から824万m³へと加速的に充実してきている。このような、利用期を迎えつつある森林資源を活用し、持続的な森林経営を実現していく必要があるが、木材価格の低迷等もふまえ、森林施業の集約化や路網整備を通じた低コスト化を図り、計画的な森林整備を一層推進していく必要がある。</p> <p>(地元の意見) 森林整備事業の実施により、水源涵養や山地災害防止といった公益的機能の高度発揮に寄与しているものとする。(岐阜県)</p>
<p>評価結果</p>	<p>【必要性】 森林の有する公益的機能の維持・増進を図るための森林整備が計画的に実施されていることから、事業の必要性が認められる。</p> <p>【効率性】 森林整備については、喫緊の課題である利用間伐を優先的に実施していることから、事業の効率性が認められる。</p> <p>【有効性】 適切な森林施業の実施により、森林の有する公益的機能の高度発揮、維持・増進に寄与していること、さらに、持続的で低コストな森林経営に向け、地域をあげた取り組みにつながっていること等から、事業の有効性が認められる。</p>

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名： 森林環境保全整備事業

都道府県名： 岐阜県

地域(地区)名： ^{たかやまし} 高山市

(単位:千円)

大 区 分	中 区 分	評価額	備 考
水源涵養便益	洪水防止便益	20,874,014	
	流域貯水便益	7,849,573	
	水質浄化便益	17,258,985	
山地保全便益	土砂流出防止便益	26,371,742	
	土砂崩壊防止便益	360,953	
環境保全便益	炭素固定便益	6,190,406	
総 便 益 (B)		78,905,673	
総 費 用 (C)		24,288,747	
費用便益比	$B \div C = \frac{78,905,673}{24,288,747} = 3.25$		

森林環境保全整備事業 高山市地区 概要図 【岐阜県】

